

実感！大地のパワーと島風情

伊豆大島ジオパークロゲイニング大会 2013年3月2日 東京都伊豆大島



競技ディレクター小泉茂行。開会式ステージで競技の注意を発表。

島そのものが火山博物館。それが「ジオパーク伊豆大島」。ジオパーク巡りそのものがナビゲーションゲームだ。

2013年3月2日(土) 東京都伊豆大島
伊豆大島ジオパークロゲイニング大会



東京竹芝桟橋から伊豆大島に到着した夜行フェリー。東京-横浜間は夜景煌めくテートスポット。東京湾外はシケ模様で激しく揺れた。

- 6時間男子
- 1 Aチーム 2013 1980点
(柳下大/市岡隆興)
 - 2 大晦日トレイル愛好会 1430点
(大西康平/池陽平)
 - 3 YamaP 1310点
(桜井剛/鈴木真)
- 6時間女子
- 1 しもしす 950点
(野口まり子/野口あや子)
 - 2 大島レディーズ 600点
(成田美奈子/山田京子/木村かおる/泉澤かほる)
 - 3 デイバズのおさる 1410点
(若林賀津子/千葉真紀子/塚田明香)
- 6時間混合
- 1 シナネン・ニューバランス 1500点
(伊藤真弓/清水直樹/若松和馬)
 - 2 渋谷で走る会 1440点
(篠原夏子/篠原岳夫)

- 3 オーシマンズ 1340点
(富田仁一郎/富田友子/難波大記)
- 3 時間一般
- 1 チーム椿 300点
(國廣圭子/小石晶子)
- 2 kichi 300点
(千葉努/千葉れみ/山科千晶/河野敬太/鈴木伶雄)
- 3 とんがりコーン 270点
(田口健太/伊澤のぞみ/本谷たかひろ/深尾ななえ/横内あきら)
- 3 時間ファミリー
- 1 滝家みかん 350点
(滝正晴/滝幸太)
- 2 駿遼 340点
(美濃部康世/美濃部駿/美濃部遼)
- 3 チーム T・Y・H 80点
(松木俊幸/松木初絵/松木美乃)
- 3 時間ソロ
- 1 orienteering.com (木村佳司) 660点
- 2 ES 関東 C (小暮喜代志) 650点
- 3 青葉会 87 (根本雅昭) 610点

大盛況

常春の島・伊豆大島の3月は「椿祭り」。毎年大島を挙げて行われる椿祭りの新しいイベントとして、伊豆大島ジオパークロゲイニングが開催された。離島での開催にも関わらず200名もの参加者が船にのって参加してくれたこと自体、このイベントが町興しとして成功したことを物語っている。

会場自体がフェリー待合室。大島で一番賑わう場所での開催だ。きれいに飾られたステージも登場し、イベントの熱い雰囲気が伝わってくる。

参加者も多様だ。オリエンティア、ファンラン系、トレラン系、地元参加者などなど。トレインは一周40kmほどの伊豆大島まるごとひとつ。これを6時間、3時間の時間制限で楽しむのが伊豆大島ジオパークロゲイニングだ。



芸人・松村邦洋もチーム参加。TVクルーを連れて体験レポートを録画中。大島椿まつりを挙げたPRに感心した。



ジオパーク (geopark) とは地球科学的に見て重要な自然の遺産を含む、自然に親しむための公園。コントロール位置は溶岩を切りとおした遊歩道。スコリア溶岩の断面がよくわかる場所。ここは赤禿 (あかつぱけ) という場所。



大島フェリー待合室は
ロゲイニングの作戦室と化した



大島まるごとひとつの巨大地図
とても6時間で回れるものではない
どこを巡るか、作戦はチームそれぞれ

伊豆大島を満喫

船酔いのようなぼんやりした頭で6時間の部の華やかなスタートを見送る。遅い朝食を食べて会場に戻ると、3時間の部の参加者が集まってきている。今回私は3時間ソロの部に参加だ。

昼前になると、さすが南国、暖かい。信州とは違うぞ。春めいた軽い装備でスタートだ。1週間前にマイナス10°Cの中でクロカンスキーしていたのが嘘のようだ。

スタートすると太平洋が目の前に飛

び込んでくる。街を抜ければ緑の葉を伸ばすフェニックスを至る所で目にする。森に入れば濃い緑の中に可憐なピンクの椿が多数咲いている。うーん南国だ。

大島北西部の平坦な海岸線を巡ると、今まで知らなかった大島の姿が次々と目に飛び込んできた。

地図には三原山噴火口も含まれているが、残念ながら3時間の制限時間ではそう足は延ばせない。

今回、路線バスを使うことが認められたルールとなっていたが、全部自分の足で巡るプランを立てた。



長根公園のゴジラ

ゴジラは大島の三原山で生まれたとも言われている？ 現地通過証明の証拠写真は自分の手を入れることになっている。



野田浜。海底には大きな溶岩アーチがあり人気のダイビングスポットらしい。



競技中にすれ違ったチーム。
楽しそうに伊豆大島を巡っている。

JOA ナヴィゲーションゲームズ

伊豆大島大会はJOA ナヴィゲーションゲームズ2013の初戦でもあった。

JOAがここ数年展開しているナヴィゲーションゲームズだが、これはロゲイニング大会を対象としたもので、年間10レースをシリーズ戦とし、ポイントにより年間順位を競うものである。しかしその真の目的は、ロゲイニング大会の相互協力による統一的な広報にある。

ロゲイニング競技は全国的に組織化されたものがなく、それぞれのイベントが独立で実施されているのが現状だ。

同じナヴィゲーション競技であるオリエンテーリング協会がその推進の一翼を担っている。広く地図を使った野外アクティビティを浸透させ、究極のナヴィゲーション競技としてオリエンテーリングを認識していただくことが目的である。

今回の伊豆大島ロゲイニング大会では、運営アドバイザーやコースディレクターもオリエンティアなら、6時間の部、3時間の部の参加者で最高得点を叩き出したのもオリエンティアである。

(木村佳司)



6時間の部スタート。トップになった柳下チームと芸人・松村チームが同時にスタートしている。